

# Fontaine

vol. 29

発行日 2010年10月25日  
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10  
岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Email:fontaine@sensyu.ne.jp

http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

## 楽器は見るだけではつまらない

### 大阪音楽大学 音楽博物館



大阪音楽大学 准教授 塩津 洋子

岸和田といえば「だんじり祭」・・・でも、それ以上のイメージが湧かない、というのが昨年までの私でした。北摂は豊中に住み、同じ豊中にある大阪音楽大学音楽博物館に勤務する身として、泉南の岸和田は、大阪市をはさんで向こう側に位置し、何となく遠い場所なのです。たぶん岸和田の方にとって豊中も、同様なのではないでしょうか。

でも、今では岸和田市は遠い存在ではありません。実は今年度、大阪音楽大学音楽博物館は岸和田市および岸和田文化事業協会と、連携事業を行っているのです。連携事業とい

うとちょっと言葉が硬いですが、音楽博物館が企画したレクチャー・コンサートを岸和田の素晴らしいホール“自泉会館”で開催する新しい試みです。「音楽世界旅」と題して年間5回を予定しており、すでにモンゴル編とイタリア編の2回は好評裡に終了しました。

音楽博物館は、名称の通り「音楽資料」の博物館ですが、一般の方々にご覧いただいている資料は楽器が中心になっていますので、楽器の博物館と思っていただく方がわかりやすいかもしれません。所蔵している楽器約3,500点、楽器を演奏している人形約1,600点



大阪音楽大学 音楽博物館



大阪音楽大学 音楽博物館入り口

の内、約1,000点を展示しています。大学内にある博物館ですので、在学生の勉学の場となるのはもちろんですが、一般公開しておりますので、どなたでも世界の楽器を楽しんでいただくことができます。

その中で、私たちスタッフが苦心している点があります。それは、楽器というものは「見る」だけでは、「音楽を奏でる」という本質の部分が「見えない(分らない)」ことです。楽器を見た時に誰もが抱く「どんな音がでるの?」「どうやって音をだすの?」といった素朴かつ重要な疑問に、私たちは応えなくてはなりません。そのために取り組んでいるのが「ガイドツアー」です。事前にガイドを申しこんだグループに対し、スタッフが実際の音を聴いてもらいながら解説をし、60~90分位で展示室を一巡します。これは「テマ」も「ヒマ」もかかる方法ですが、グループごとの年齢構成や特徴に合わせた説明を心がけますので、とても満足していただいているようです。この他、第1土曜日と第3水曜日に個人の来館者を対象としたガイドツアーを実施しています。これは予約不要で、開始

時間、14時に来ていただければお一人から参加可能です。

また、展示室の一隅に「試奏コーナー」を設け、ヴァイオリン、ミュージカル・グラス、チンドン太鼓、二胡など、自由に試してもらえる楽器を色々ご用意しています。

このように、「見るだけではない」博物館を目指している本館は、館外での活動も積極的に行っています。色々な場所で、博物館の楽器を使った講演やコンサートを開催したり、他の施設での特別展示に楽器を貸し出したり、時には小学校の授業に楽器を提供することもあります。小学生がよく知っているお話「スーホーの白い馬」に登場する「馬頭琴」はリクエストの多い楽器です。

今年度は岸和田市および岸和田文化事業協会と連携する催しが実現して、本館の活動領域を拡大することができ、大変うれしく思っております。冒頭に述べましたように少々距離がありますが、これをご縁に岸和田にお住まいの皆様にもご来館いただきたく、お待ち申し上げます。



音楽世界旅「イタリア編」で演奏した楽器

## 岸和田から世界を知ろう!

今の時代でも残響音びったりというホールはなかなか建ちません。大正時代に建った自泉会館ですが、音の響きは他のホールの群を抜いています。

この素晴らしさを出来るだけたくさんの種類の楽器で確認し、音楽は生活と共にあることを岸和田市民に紹介してみたいと企画した音楽世界旅シリーズです。演奏だけではなく、その国の話や音楽や楽器

が生まれたエピソードも交えながら行っています。普段着で聞けるコンサートです。

「モンゴル、イタリア、と経てイラン、アルゼンチン、インドネシアと続きます。モンゴルもイタリアも大変好評でした。岸和田から世界を知る企画にぜひご参加ください。

会長 松本則子

# Cultural Hot Spot In Kishiwada

## 楽しく新しい 文化を表現する 大阪府立和泉高等学校ダンス部

最近、岸和田駅構内の東京三菱UFJ銀行前で見かけるのが、夜にダンスを練習している若者たち。また、小学生などの子どもたちを中心としたダンス教室も盛況だという。ちなみに、ここでいう「ダンス」とは、「ヒップ・ホップ」「ジャズ」「ブレイク」といったストリート系のダンスのことで、これといった決まりを持たないのが特徴。そんな「ダンス」をクラブ活動として取り入れているのが府立和泉高校。その来歴と活動内容、そして所属する生徒の声を聞いてきた。



左から田中さん・橘川さん・尾上君

### 50人の部員を抱える新生クラブ

もともと和泉高校には国体にも出場した経験のある「創作ダンス部」が存在したものの、部員数は年々減少し、やがて廃部。しかし、10年くらい前からストリートダンスがブームになり、町のスタジオなどで習ってきた生徒によって創部されたのが、新生「ダンス部」だ。

「まず同好会の形でスタートし、正式にクラブとなったのは9年前。最初の部員は数人でしたが、ここ5年くらいで急に増えてきました」と説明してくれたのは同校教諭でダンス部顧問の片岡秀樹先生。

現在、ダンス部に所属する生徒は引退した3年生も含め男女約50人。クラブ活動離れが著しい昨今において、大所帯ともいえる。

### ダンス部が目当てで入学する生徒も

そんなダンス部の中心的役割を担うのが、部長の橘川ななさんと副部長の田中香帆さん、そして男子副部長の尾上吉也くん（いずれも高2）。小学校2年からダンスを習っていたという橘川さんはダンス部の活動が盛んだというので和泉高校進学を決めたという。

「ダンスのおもしろさは、みんなで考えて踊ることと、イベントに出て見てもらうこと」と話す橘川さん。

入学してからダンス部の存在を知り、楽しそうだから入部したという田中さんは「みんなでどんな踊りをするのかとか話し合ったりするのは楽しいし、振りを全部決めて、（イベントなどで）やり終えたときはやっていてよかったと思う」と笑顔を浮かべる。

女子に比べ、在籍者数が2年生の4名だけという男子の代表、尾上くんは「男子は（チームで演技する）女子と違って個人が主体で、ダンスバトルとかが主ですが、自分の能力を試したり、みんなともいろいろ考えるのがおもしろいです」と魅力を語り、3人とも卒業しても、何らかの形でダンスを続けるつもりだと話してくれた。

### ストリート文化が教育の場に

現在、ダンス部がある高校は和泉高校だけでなく、近年は増加傾向にあり、どの高校も部員数は多い。ただし、ストリート系のダンスを学校のクラブ活動で行なうことに、苦言を呈する人もなくはない。見る人によっては、現代風の音楽にあわせて自由に踊るダンスを「遊んでいる」としか捉えないらしい。

そんな点を片岡先生は「真剣に取り組めば必ず世間は評価してくれる」と部員を諭し、「ダンスを通して創造力や向上心、そして一致協力する心や自主性を養うのがダンス部の目標です」と話す。

年齢層によっては、高校のクラブ活動として理解しがたいかもしれないストリートダンス。けれど、多くの生徒が興味を持ち、そして「ダンス」に対して真剣に取り組んでいる。その姿は清々しくもあり、若さが弾けて眩しくもある。

片岡先生はいう。「つまり、ストリート文化が高校の中にも入ってきたということです。文化は何も堅苦しいものだけでなく、楽しい文化もあるはずです」。



練習風景

株式会社ば楽器店会長  
オルガン修復師

加藤 正治

岸和田には多くのすばらしい先人たちがおられます。いろいろな分野で活躍された岸和田ゆかりの著名な方々をご紹介します。



辻オルガン

## 辻 茂治

### Tuji organ Kishiwada Japan について

日本聖公会 岸和田復活教会の礼拝が始まる前に、いつもオルガンの横に立つ少年がいました。オルガニストの本番前の練習を聞くためです。すっかりオルガンのトリコになった<sup>しげじ</sup>茂治少年はやがてオルガンの手ほどきを受けることとなります。めきめき腕を上げる茂治が15歳になったとき、牧師は外国人居留区に住むキリスト教宣教師ジョウジ・オルチン音楽博士に紹介、住み込み弟子入りします。3年間の修行、オルチン氏より音感と器用さが認められ、当時上海にいた著名なオルガニストに住み込み弟子入り、オルガニスト誕生。更にこの子の器用さが製造技術面の能力として認められ、メイソン・ハムリン上海工場に入社。就業勉学6年間木工処理（水中乾燥、木の油を抜く、虫や卵を処理）から、製材、井桁に組んだ天然乾燥、木取り製造工程、仕上げ（調律、バランス、整調）を学び、調律技師となって帰国後、大阪石原楽器店に勤務。その後、郷里岸和田にオルガン製造販売店を開業しました(明治33年ごろ)。辻オルガンはメイソン・ハムリンと同じ音質音量、操作機能を持ち、その素晴らしさ出来栄は和歌山、大阪等国内はもちろん朝鮮京城府や中国にも感動的に歓迎されました。当時ヤマハでさえ成しえなかった輸出業務もこなしました。世界に通用するレベルに完成していたからです。

今年、遷都1300年を記念して奈良女子大学で日本リードオルガン協会の全国大会が催されました。オルガンと歌と講演、そして講談。講談『小さな島国のオルガン造り』(旭堂南左衛門)は、軍国時代にオルガンを作る難しさ、帝國陸軍の幹部が茂治の製作所に訪れ、「男子たるもの国



辻家所蔵の辻オルガン

家国民のため軍人…」)。見向きもせずに作業を続ける茂治の姿に軍人は感動して帰り、「文化教養の有る世界の軍人でなければ…」。と語るという内容です。

オルガニスト茂治が納得のオルガン製造をしていたとき、突如製造が中止されてしまいました。39歳で結核のため逝去したからです。若すぎる彼の死に対して上海メイソン・ハムリン工場全員を始め取引先の国内海外からも弔慰が寄せられました。

- 年 譜： 明治9年5月(1876)生まれ、岡部落士の次男、(廃藩置県後魚網貸し業を営む)大正4年7月死去。当時長男7歳、長女4歳。
- 海外輸出先： 朝鮮京城府若草 西村楽器店
- 国内販売店： 和歌山市新通 宮井宗兵衛本店、大阪市淀屋橋 石原楽器、他
- 現存確認： 羽曳野市 辻家(ご子息)、大阪音大音楽博物館、明治村聖ヨハネ教会堂、滋賀県高島大溝教会に各々1台
- 講 談： 『小さな島国のオルガン造り』旭堂南左衛門は、畑 儀文(日本リードオルガン協会関西支部長・武庫川女子大学教授・歌手)に連絡で実現できます。

# きしわだ昔話歳時記 第四話

## 「七五三と豆狸」<sup>まめだ</sup>

劇作家 藤田 保平



どーと昔のことやけどね。お宮のちよつと脇に

「首つり山」て呼ばれてる小高い丘があつてね、

松の木が五、六十本生えちやつた。「首つり山」  
て言うてもね、別に誰がそこで首つったちゆう訳  
やのうて、ま、そんなそさしいとこやちゆうこつ  
ちや。その「首つり山」に、豆狸の親子が住んじ  
やあつてね。豆狸は何やてか？さいよのよう、ど  
ない言うたらええんか、まあ言うてみたら、小型  
の豆狸で言うこつちやろか。こいつがまた悪賢い  
奴でねえ、ご馳走の包みやら持つてそこを通りか  
かると、後ろからついてって、足の踵のところが  
足袋の合いさへさいて砂をチョツチョツと入れく  
さるんや。誰かて足袋の合いさへ砂入ったら気が持  
てるかるわ、て言うて足袋脱がなんだら中の砂、  
出されへん。しゃあないさかい、ご馳走の包を下  
へ置いて足袋の砂を出して履き直して、さあ帰の  
て思もたら、その間にご馳走の包持つて行かれて  
しもてもうない。失敗て思ても後の祭、トンビに  
油揚げやのうて、豆狸にご馳走さらわれた、ちゆ  
う訳や。

「首つり山」の豆狸はね、権太郎とお米の夫婦

に、お花、ポン太ポン吉の三匹の子豆狸。

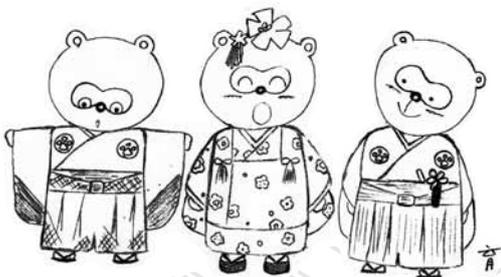
鯛の鱗のよな雲が真青な空に浮いている或る日

のこと、娘のお花が「お父ったん、今日は何や知  
らんけど、ええ着物着た人間の親子が朝からお宮  
の方へゾロゾロ行くけど、あら何な？」。「あら  
何んなて、あ、そうか今日は十一月の十五日。あ  
らね、七五三詣りに行く人間どもじゃ」。七五  
三詣りになんな？」。「七五三詣りに言うたら  
ね、三歳になった男の子と女の子は髪置きの祝  
い。五歳になった男の子は袴着けの祝い。七歳に  
なった女の子は帯解けの祝いちゆうてね、子ども  
の成長の節目に、これからも無事に育つようにて  
産土のお宮へ詣る、まあ言うたら儀式やのう。も  
とはて言うて平安時代の宮中や貴族の儀式やった  
そうなけどのう」。「ふうん、女の子は七歳にな  
ったら帯解くんかあ」。「そうやのうてね、それ  
迄の子どもは着物に縫いつけた紐で結んじやった  
のが、その紐を外して、別の帯を結ぶケジメのこ  
ちやのう」。「ほたら、帯解けやのうて、紐外  
しと違ふんか？」。「理屈ぬかすな。人間どもは  
そない言うてやってんやさかい、放っとけ！」。

「お父ったん、わいもあんなええ着物着てみた  
い」。それを端で聞いちゃったポン太ポン吉も  
口々に「わいもええ着物着たい、ええ着物着たい  
よお」て騒ぎ出した。「あら人間どものするこつ  
ちや、豆狸は豆狸じゃ」。怒つても子豆狸、言う  
こと聞かん。母親豆狸が「ほなちよつと待って  
い」て言うて、近くの土居縁りの田ンボへ行っ  
て、稲刈が済んで用のないよになった案山子の着  
物三枚剥してって、三匹の子豆狸に夫々に着せ  
て、口の中で何やらモゴモゴのパツて言うたら、  
三匹の子豆狸、どこのお嬢ちゃん、お坊ちゃんか  
いなて言うよな大变身。さあ、三匹の子豆狸、大  
喜びの大はしやぎ。「お父ったん、お母ん、おお  
きにおおきに、こないええ着物着せてもろたん、  
生まれてから初めてや、さあほたらわいらもお宮  
詣りに行く、早よ行く」。

子どもの喜ぶ姿を見るのは人間も豆狸も変わら  
ん親の情ちゆうもんや、ワイワイ言う子豆狸に手  
を引っぱられて親豆狸も浮き浮きした気分になっ  
て、嬉しゅうなつてお宮の鳥居をくぐったら、向  
こうから来る人間の子ど  
もらが指さして大きな声  
で、「豆狸や豆狸や  
あ」。ふと気がつくど、  
子豆狸の着物のことに気  
い取られて、親豆狸二匹  
は豆狸のまんまやったん  
んやてよ。……………  
ピッカラドンのポン。

(注1)  
そさしい＝淋しい。不気味。





写真右のご婦人は、  
留学時代からお世話  
になっていたおばさん、  
イーファー・マリア・  
メツクさんです。

## 「2010ザルツブルグ音楽祭を訪ねて」

シューマン生誕200年～晩年作品の闇と光

ピアニスト

神戸女学院大学音楽学部教授

佐々 由佳里

猛暑が続いた8月、かつて4年近く学生生活を送ったザルツブルグを訪ね、今年90周年を迎えたザルツブルグ音楽祭を聴いた。ショパンとシューマン、共に生誕200年を迎える今年、音楽祭でも彼らの作品が数多く取り上げられていた。

その中で心に残ったコンサートは、エッシェンバッハ指揮、ウィーンフィルによるシューマンと現代作曲家、リーム作品のコンサートだ。シューマンのピアノとオーケストラの作品、「序奏とアレグロ アパショナート」Op.92は、ピアニスト、ツィモン・バルトの夢見るようなアルペジオで静かに始められた。瞬時にシューマンの優しさが溢れた幻想の世界へ導かれる。2曲目はピアノソロの作品で変奏曲変ホ長調。シューマンが精神病院に収容される直前に仕上げた作品である。精神のバランスを崩し、幻聴に悩まされたシューマンが、「天使が歌ってくれた」というメロディーをテーマに書いた曲である。その僅か後に彼は厳寒のライン川に身を投じ自殺を図ったが未遂に終わった。静謐で壊れそうなその美しさに息を呑む。指揮者もオーケストラも舞台上で身動きせず、ピアニストの紡ぎ出す一音一音に聴き入っていた。最後の音からそのまま小ピアノ協奏曲、「序奏とアレグロ」Op.134が演奏された。精神の崩壊と闘い苦悩するシューマンが、ピアニストである妻クララの誕生日に贈った作品である。切々と訴えかけてくる悲痛なメロディは、いつしか素朴で柔らかなメロディーに変わり行く。それは童謡「赤とんぼ」の一節と酷似している。郷愁を誘う懐かしい調べにシューマンの苦悩が重なり、切ない思いでいっぱいになった。触れる機会の少ないシューマンの晩年作品は、強く心を揺さぶる激しさと切ないほどの美しさが交錯していた。シューマンの闇と光を垣間見た忘れ難いひと時だった。

## もっとヴァイオリンを楽しもう



チェロ奏者

桐朋学園大学付属東海教室講師

堺 靖師

弦楽器の代名詞と言われるほど、広く知られているヴァイオリンですが、意外とそのルーツは知られていないのをご存じですか？たくさんの人達が、そのルーツを探ろうと頑張っていますが、依然として確実な説が見つかっていない様です。

現在では、16世紀に、突然今のヴァイオリンとして歴史が始まっているというのが一般的な説になっています。これは、ヴァイオリンの原型と言われるような楽器や、試作品等が現存していない事も原因しています。東洋では、馬頭琴や二胡などがヴァイオリンの原型と言われたりします。ヨーロッパにも、フィドルや、アラビアのラバープ、フランスなどで使われたレベック等がありますが、どれも共通点は少ない様です。不思議な話ですね。

それに対して、ヴァイオリンの演奏に欠かせない弓は、大変古い歴史が有ることが判っています。一説にはアッシリアの石版に、紀元前900年頃、アッシリア人がトリゴノンと言う、弦を張ったハーブのような楽器を、長い撥の様な物に松脂をつけて、こすって演奏したと言った記録が記されているそうです。従ってこれ以前には、既に弓の原型が有ったと思われます。

又別の説には、古代の狩猟用の弓の弦は馬毛や麻をよりあわせたものの表面に、滑り止めと補強のために、松脂に油を加えて煮たものを塗って張ったそうです。同じようにヴァイオリンの弓も、演奏の際、摩擦を大きくするため弓の毛に松脂を付けます。この狩猟用の弓の弦と、矢又は撥のような物とを擦り合わせて音を出していた（この場合、矢や撥がヴァイオリンの弓の役割をします）のが始まりと言う説。等が多く伝えられています。

芸術の秋真っ盛りです。ごく当たり前に演奏する、演奏を聴く事の出来る、ヴァイオリンですが、別の視点からスポットを当てて見ることで、より一層、この楽器の魅力、神秘性を深めることが出来るかもしれませんね。

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。  
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

## 音楽世界旅 VOL.1 モンゴル編

平成22年6月25日(金)～6月27日(日)に現物の「ゲル」、民族衣装、馬頭琴などの展示に加え、26日(土)にはモンゴル音楽のコンサートをを行い3日間で236名の入場者がありました。

### 〈皆さんの声〉

- 民族衣装を着させてもらえて、文化に触れることができました。
- ゲルを見ることができ、本格的な展示で面白かった。
- 生のホーミーを聴けて、モンゴルに行った気分になりました。
- モンゴルの音楽が好きでよく聴きに行きますが、今まで色々聴いた中でも特に良かったです。楽器の歴史とか説明があっただけです。



ゲル

## 会員対象事業「七宝焼き講習会」

平成22年7月7日(水)に、西念秋夫副会長に講師をお願いし、七宝焼き講演会を実施しました。当日は9名の会員が参加し、和やかな楽しいひとときを過ごしました。

### 〈皆さんの声〉

- 七宝焼きで自由な形を作ることができるのは驚きでした。手作りのネックレスができてうれしかったです。
- こういう会員対象の企画は続けてほしいです。
- 絵付けした作品を焼くと、意外な色の傑作キーホルダーができました。



## 第21回自泉フレッシュコンサート ～真夏のさわやかコンサート～

平成22年8月8日(日)に音楽を学びプロフェッショナルとして歩み始めたピアニスト3名による演奏会を、自泉会館ホールで実施し、75名の入場者がありました。

### 〈皆さんの声〉

- とても力強い演奏でよかったです。曲の説明等もしてくれたので良かったです。
- バッハの曲が、この建物にマッチして美しかったです。
- ショパン ノクターン遺作は、聞き慣れない曲のせいか、大変印象に残りました。



## 音楽世界旅 VOL.2 イタリア編

平成22年9月3日(金)～9月5日(日)にヴァイオリンの製作模型展示、ガラス細工作り体験、オペラ上映会を行いました。また9月4日(土)にはヴァイオリンコンサートを行い、昔の色々なヴァイオリンを間近に見て、音色も聴かせてもらいました。3日間で167名の入場者がありました。

### 〈皆さんの声〉

- 5本のヴァイオリンとチェロを見て、目の前で演奏してくれたので違いがよくわかりました。
- 間近でヴァイオリンの生の音色に触れて、その音色の表情の豊かさに驚きました。
- 大阪音大の博物館に展示している珍しい貴重な楽器を見れて、演奏を聴けて幸せなひとときでした。
- 自分だけのアクセサリが出来て楽しかった。



## 能舞台で奏でる和洋の響き 杉江能楽堂コンサート

平成22年10月1日(金)に岸和田の杉江能楽堂の能舞台を使い、和の調べと洋のメロディーを聞き比べました。当日は132名の来場者で満席になりました。



### 〈皆さんの声〉

- 岸和田に住んで60年。初めて能楽堂を拝見しました。市の誇りですね。
- 和と洋の素晴らしい音色に感動しました。
- 能を舞う前に、説明があっただけで、とても分かり易くて良かったです。

# 岸和田文化事業協会の事業 Information

## 文化の日祝典記念事業 岸和田ゆかりのクラシックコンサート

岸和田出身・在住の3組(ソプラノ、チェロ、ピアノデュオ)  
による演奏をお楽しみください。

日時:平成22年11月3日(祝)午前11時30分開演

会場:マドカホール(荒木町1丁目)

出演者:堺多恵・坂本佳奈美(ピアノデュオ)  
堺靖師(チェロ)・堺多恵(ピアノ伴奏)  
寺本郁子(ソプラノ)・加藤あや子(ピアノ伴奏)  
演奏曲目:リベル・タンゴ(ピアノソラ)  
動物の謝肉祭より『白鳥』(サン・サーンス)  
歌劇『蝶々夫人』より“ある晴れた日に”(プッチーニ) 他

入場料:無料(要整理券)

問い合わせ:マドカホール ☎443-3800(月曜日休館)

## 音楽世界旅 VOL.3 イラン編

レクチャー・コンサート“ペルシアの幻想”

トンバク・サントウール・セタールの競演

ペルシア音楽のエキスパートを招いて、古代シルクロードの音風景を再現します。  
ピアノのルーツである打弦楽器サントウールやゴブレット型の太鼓トンバクの響き、  
そして古代メソポタミアにまでその歴史を遡る  
セタールによる弾き語りなど、名演の数々をお楽しみください。

日時:平成22年11月6日(土)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:お話:西岡信雄

演奏:エスイ・テヘラニ(トンバク)  
バーラム・サーランギ(歌・セタール)  
プーリー・アナビアン(サントウール)  
河村真衣(サントウール)

入場料:一般前売 2,500円

会員前売 2,000円(当日各300円増)

企画:大阪音楽大学音楽博物館

## 第23回 自泉フレッシュコンサート ～名曲を訪ねて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた  
新人演奏家等によるコンサート

日時:平成22年12月26日(日)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:一般前売 1,200円

会員前売 1,000円(当日各200円増)

出演者:鎌田 明香(ピアノ)  
小村 麻依子(ピアノ)  
紀之定 郁恵(ピアノ)

## 音楽世界旅 VOL.4 アルゼンチン編

レクチャー・コンサート

“アルゼンチン・タンゴの華  
バンドネオンの真髄を聴く”

日時:平成23年1月29日(土)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:一般前売 2,500円

会員前売 2,000円(当日各300円増)

企画:大阪音楽大学音楽博物館

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

平成22年度(平成22年4月～平成23年3月)

## 会員募集

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。  
鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して  
「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的としています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に  
賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

年会費(入会費不要)

個人会員(1口)	2,000円	団体会員(1口)	5,000円
家族会員(1口)	1,000円	法人会員(1口)	10,000円
(個人会員の同居家族)		特別会員(1口)	50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。  
郵便振込の場合は  
口座番号 00970-9-28145  
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。  
TEL/FAX 072-437-3801  
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## nouvelle Fontaine vol.29

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2010年10月25日

◆事務局  
〒596-0073  
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内  
TEL/FAX 072-437-3801  
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・歯黒猛夫  
藤田保平・本郷元子

## 編集後記...

「ぬーべるふぉんてーぬ第29号」をお届けします。

殊のほかの酷暑の翌日は晩秋、という厳しい気候。そして猛暑の次に  
来る冬は厳冬になりそうとか。

自然界のみならず、外交面でも今この国は厳しさに直面しています。  
私たちは今、真の賢明さを求められ試されていると思います。

いつまでも平穏で、全ての人が自由で、豊かな文化の恩恵に浴する  
ことが出来る社会を作るのは、私たち一人一人であると改めて覚悟を求  
められていると、ひしひしと感じるこの頃です。(本郷)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索